

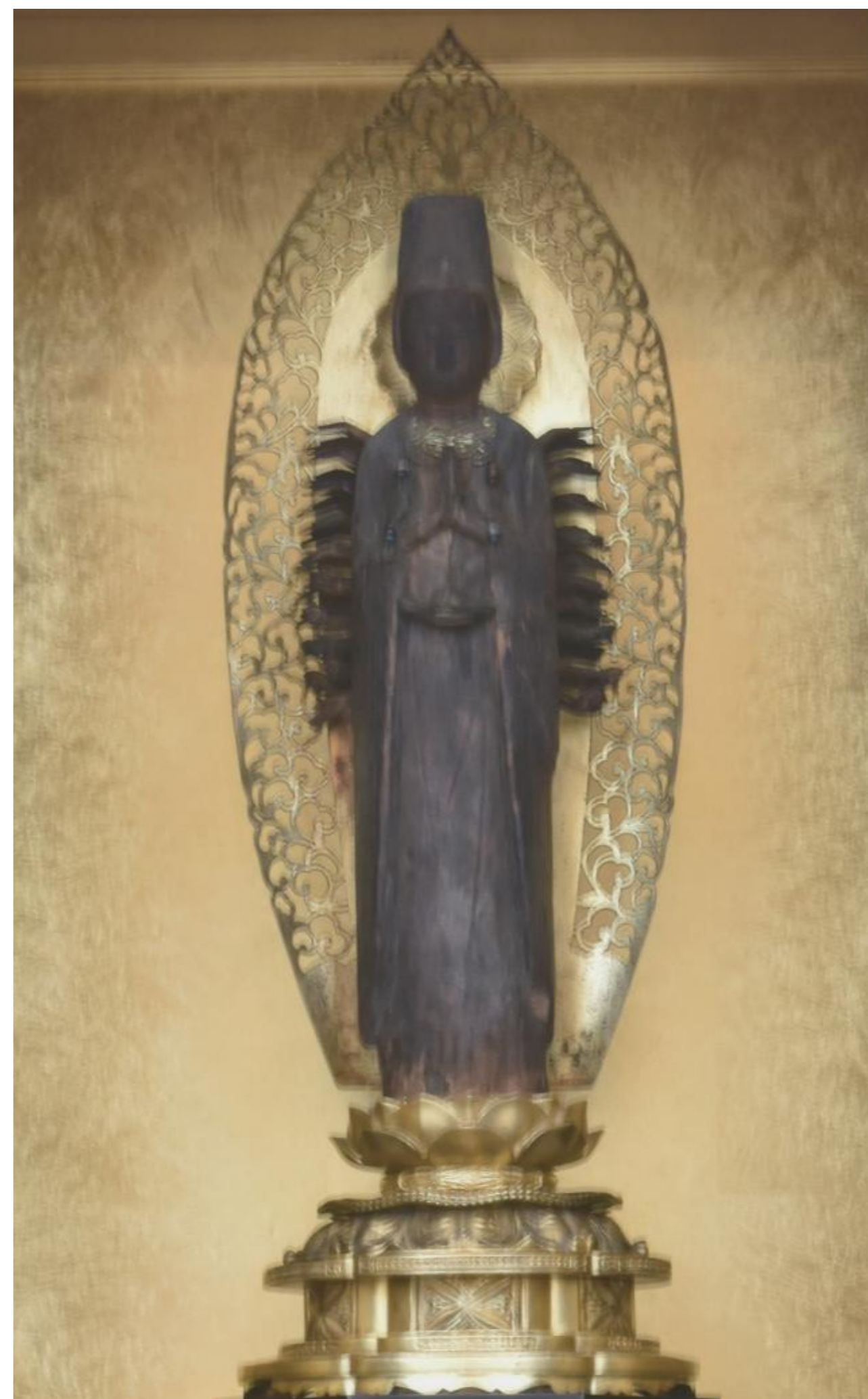
地名千住考

— 発見された郷土史家の未発表原稿 —

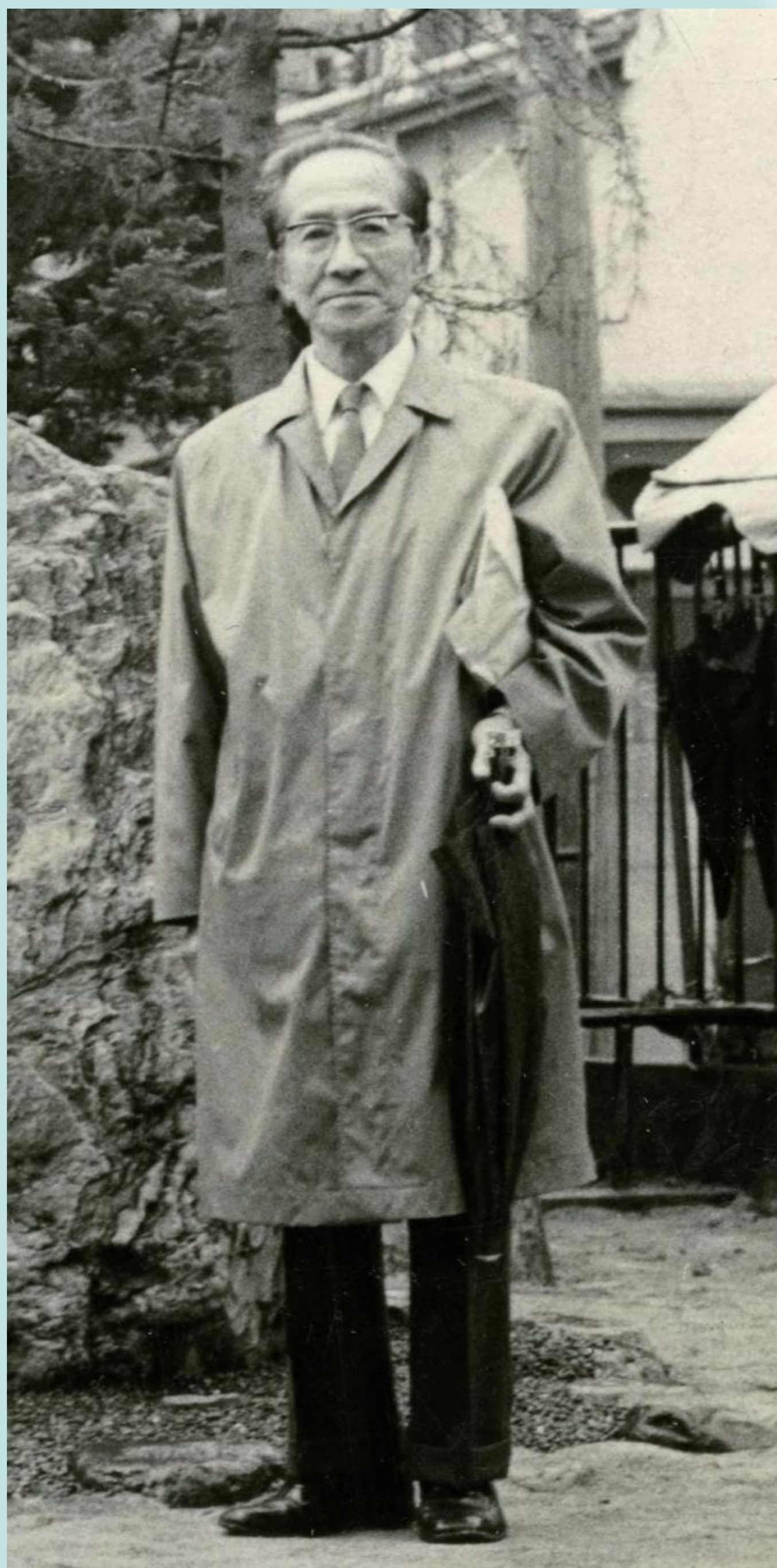
「千住」という地名の由来には諸説あります。

嘉歴2（1327）年、新井図書政次が、荒川（現在は隅田川）で千手観音の像を見つけたことにちなみ、「せんじゅ」と呼んだという説やかつて千葉氏が住んでいたので「千葉住村」といったのを、のちに略して「千住」といったという説があります。

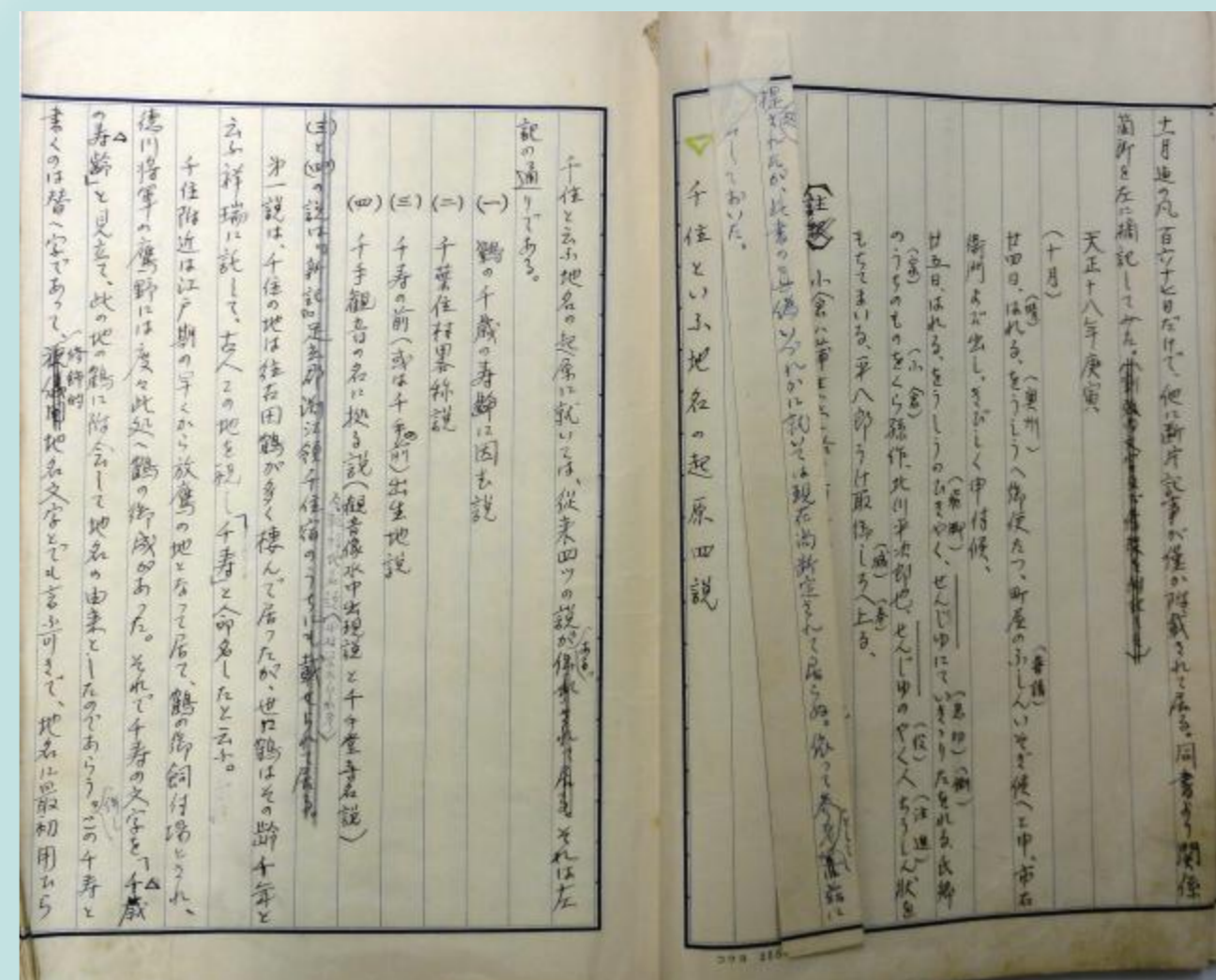
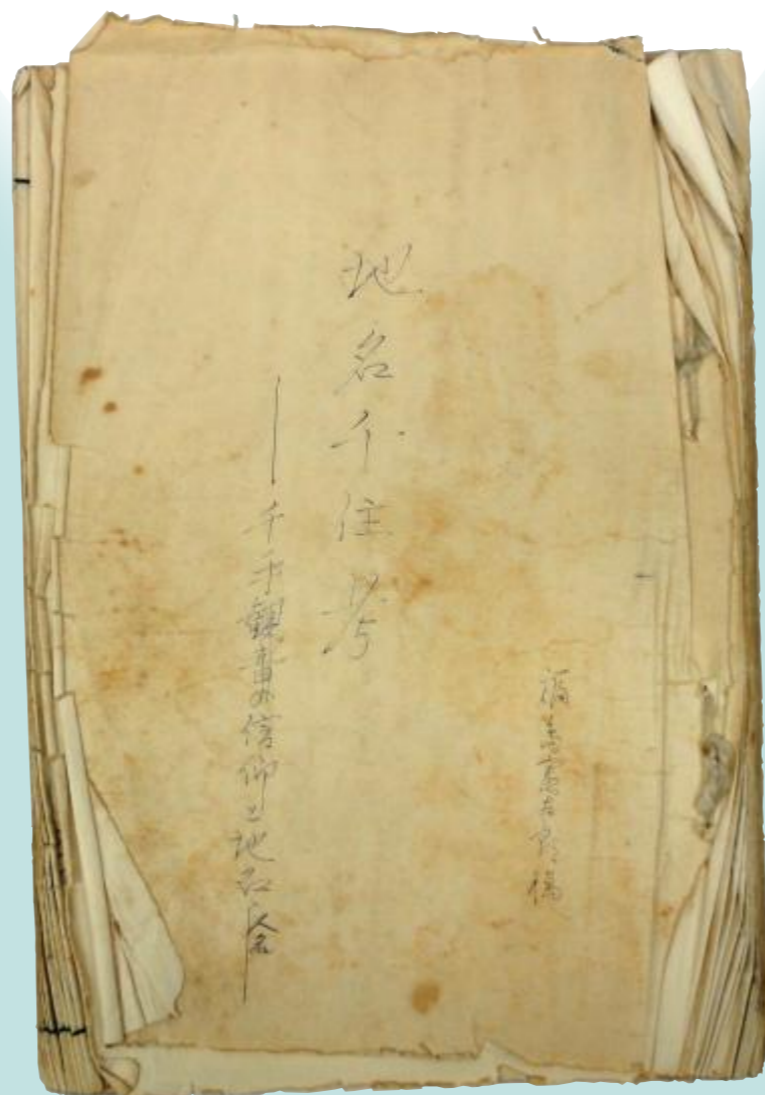
ほかにも諸説がありますが、すくなくとも徳川家康の入府以前、戦国時代には、千住という地名がすでに使われていたことが確認できます。



▲ 千住観音像（勝専寺）



▲ 福島憲太郎氏写真（『足立史談』500号）



▲ 福島憲太郎氏の未発表原稿「地名千住考」

「地名千住考」とは、故福島憲太郎氏による未刊行の原稿タイトルです。元千住葱専門問屋十一代目川崎屋の主だった福島氏は、千住にまつわる多くの資料を収集し、建部巢兆の研究者としても知られました。彼の集めた多くの資料は郷土博物館に寄贈され、展示や研究に大いに役立てられています。